2012 Gyoda City Photo Studio

写真館

全国という大舞台で活躍を誓う

7月27日、陸上競技（100メートル走）で全国大会出場を決めた五十幡亮汰さん（長野中学校2年）と空手道団体戦・形の種目で全国大会出場を決めた松本廉さん（同中学校3年）・長島奨馬さん（同中学校3年）・山口拓海さん（同中学校2年）が工藤市長を表敬訪問しました。

工藤市長から「日々の努力を怠らず、練習を続けて行田の代表として頑張ってほしい」と激励の言葉を受けた生徒の皆さん。それぞれ全国大会という大舞台への意気込みを語り、ベストを尽くすことを誓いました。（写真左から長島さん、松本さん、山口さん、五十幡さん）

花を上手に育てるこつを習得

7月21日、テクノ・ホルティ園芸専門学校で市内の小学4～6年生を対象に花の寄せ植え（生き方学）が行われました。

これは、7月14日に開校となった子ども大学ぎょうだの学習プログラムの一環として行われたもの。観賞用のトウガラシ・ニチニチソウ・アイビーを植えた児童33人は、水や肥料をあげる量などを教わったことで、花を上手に育てるこつを習得することができたようです。

日常生活の中に溢れる音を感じて

7月13日、いきいき財団主催の「ゆかいな打楽器コンサート」が、音楽家の野尻小矢佳さんと井之上南さんを招き、長野保育園で開催されました。

新聞紙やコップ、鍋など身の回りにある道具を使ったり、地上や天空をイメージした音を奏でたりと、子供たちの心をくすぐる演奏が行われました。

ピアノの伴奏に合わせて奏でられる打楽器のさまざまな音色を、身を乗り出して聴き入る子供たち。日常生活の中に多彩な音が溢れていることを、観て、聴いて、感じることができたようです。

宥座の器が寄贈されました

7月25日、現代の名工針生清司さんが制作した「宥座の器」が、㈶忍郷友会を通じて本市に寄贈されました。

「宥座の器」とは、空のときは傾き、程よく水を注ぐと水平を保ち、注ぎ過ぎるとひっくり返る器です。これをもとに中国の思想家孔子が弟子たちに「満ちて覆らないものはない」と慢心や無理をいましめたとされています。銅製の古代蓮が輝くこの器は、「みらい」内にある喫茶コーナーに設置されていますので、ぜひ水を注ぎに来てください。

活気に満ちた行田浮き城まつり

7月28日・29日の2日間、気温が35度を超える猛暑の中、「第19回市民祭・行田浮き城まつり」が盛大に行われました。日中は、ステージイベントや路上で行われたYOSAKOIソーランなど活気溢れるパフォーマンスが行われました。

日が沈むころ、お祭りは最高潮に。「ソーレ！」の元気な掛け声が会場に響き渡っただんべ踊りや迫力のある神輿渡御、山車のたたき合いが息つく暇もなく行われ、会場を埋め尽くした観客誰もが行田の熱い夏の夜を満喫していました。

水防の要として

8月4日、須加小学校裏の利根川堤防で水防演習が行われました。

この演習は、利根川がはんらんした事態を想定し、市民の皆さんのかけがえのない命や財産を守るために行われたものです。工藤市長の号令の下、90人の水防員らは、木流しや月の輪など全部で8つの工法に取り組み、水防技術と本市の水防の要としての自覚を高めました。

神秘的な雰囲気に包まれて

7月29日、商工センターでいきいき財団主催の「古代蓮物語」の公演が行われました。

この古代蓮物語は、市内在住の田代敬二さんが古代蓮を題材に創作した「紅津子物語」を原作として、「千数百年の時を越えて、古代蓮はなぜよみがえったのか」をたどる内容の語りに、舞と音楽を融合させたもの。

神秘的な雰囲気の中、伝統芸能分野において本市を代表する花柳寿々司郎さんの舞が披露されるなど、公演に訪れた人は芸術性の高い舞台に魅了されていました。